

授業科目名	老年看護学援助論 (2300215)		
時間割名	老年看護学援助論 (11203)		
時間割担当	吉村雅世		
実施期	前期	単位数	2 必修
曜日・時限	月・1		

授業の目標・概要

本科目の目的は、老年期にある人の健康障害と生活の特徴を理解しQOLの視点から健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の軽減といった看護実践の技術を習得することである。加齢による発達の特徴や複数の疾患を抱える高齢者の様々な心身の症状・兆候を捉え、高齢者の尊厳を守り生命維持・健康生活維持のための看護の必要性を判断し実践するための方法を学ぶ。

学習の到達目標

1. 高齢者の健康状態を評価し、身体機能の状況に応じた看護を学ぶことができる。
2. 高齢者の日常生活機能を評価し、生活機能の状況に応じた看護を学ぶことができる。
3. 認知機能が低下している高齢者の看護について学ぶことができる。
4. 健康障害、日常生活機能障害をもつ高齢者の看護過程の展開を学ぶことができる。

授業方法・形式

講義と演習で構成する。

少人数でのグループディスカッションと発表を取り入れ、他の学生の意見を聞きながら自己の学びを深める事を期待する。

授業計画

- 第1回 老年看護学援助論の学び方 老年看護に必要な技術
- 第2回 高齢者看護の基本技術（コミュニケーション、アセスメント）
- 第3回 疾患・障害に対する看護1（感覚・知覚、活動・運動の援助）
- 第4回 疾患・障害に対する看護2（感覚・知覚、活動・運動の援助）（演習を含む）
- 第5回 疾患・障害に対する看護3（栄養・食事の援助）
- 第6回 疾患・障害に対する看護4（排泄の援助）
- 第7回 疾患・障害に対する看護5（健康活動への援助）
低体温・熱中症 電解質異常 浮腫 肝機能障害 感染症
- 第8回 認知症 うつ病 せん妄の看護（認知機能への援助）
- 第9回 治療を受ける高齢者の看護
高齢者の薬物療法 手術療法 リハビリテーション 行動制限 診察・検査、入院・退院
- 第10回 長期療養施設の看護
介護保険 介護保険施設 グループホーム デイサービス・デイケア
- 第11回 心理・社会活動に対する援助（気分転換活動への援助）
- 第12回 終末期の看護
高齢者の死と医療ケア 認知症高齢者の終末期ケア
- 第13回 高齢者看護の展開1 老年看護学実習の基本的考え方
- 第14回 高齢者看護の展開2 事例を用いた看護過程の展開
- 第15回 高齢者看護の展開3 事例を用いた看護過程の展開

成績評価の基準

定期試験60%、小レポート30%、態度・質疑応答10%

授業時間外の課題

老年看護学では、健康な高齢者から疾患を持って生活している人、治療を必要とする人など対象は幅広い。また、高齢化が進行している現在、高齢者の多様性には未知の部分もあり、新しい知見や情報が発信されている。

常に高齢社会の状況に目を向け、新しい知見や情報を得るようにすること。

既習の関連学習を活用しながら授業を展開するので予習を怠らないこと。

メッセージ

講義内でお伝えします。

教材・教科書

テキスト 「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院

参考書

- 参考書 「ナーシンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践」 メディカ出版
「看護実践学老年看護学」 ピラールプレス
「QOLを高める専門看護・介護を考える」 中央法規